算数科　　第１学年　　「ひきざん」

育成を目指す資質・能力　【課題発見・解決力】

《本時における学ぶ意欲が高まった児童の具体的な姿》
○13－９の計算の仕方を，既習の加減計算や「10 といくつ」といった数の見方を基に，ブロックや図を使って考え，説明している。

《本時における統合的な考え方》【集合】
○既習の加減計算の考え方や数の見方を基に，未習の計算の仕方を考えさせる。

実生活や他教科への広がり

新たな見方・考え方への広がり

授業のながれ（全 12 時間　第２時）

○つかむ・見通す

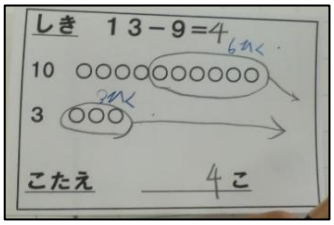
どんぐりが　13 こあります。
かんむりづくりに　9 こつかいました。
どんぐりは，なんこのこっていますか。

既習のばらからひいて計算すると良いということを確認した後，ばらどうしからひいて計算する考え方が使えない場面を設定することで，新たな方法での課題解決に向けてのきっかけを作り，問題解決の意欲を喚起した。

○学習課題

ばらからひけないひきざんのしかたをかんがえよう。

○考える・学び合う



【10 のまとまりからひいて図にかき込みしている児童の考え】

【ばらからひく図の考えをブロックを用いて説明している児童】

○学び合う　【集合】

まる図やブロックの操作方法を通して，「10 のまとまりからひく方法」と「ばらからひく方法」を説明した。これまでの学習と違って，どちらも 10 のまとまりをくずさないと計算することができないことに気付かせ，ブロック操作とまる図により説明を関連付けながら考えさせることにより，まとめにつなげた。

○まとめ

ばらからひけないときは，10 のまとまりからひいてけいさんする。

○適用問題・振り返り

適用問題は，学んだことが理解に結び付いているか確かめることができるように，「12－９」に取り組ませた。９のひき方が分かるようにまる図を提示し，考え方をかき込ませた。本時の学習の解決過程を振り返り，ばらからひけないひき算の仕方について整理させた。

児童の様子

実生活とのつながり

○どんぐりのかんむりの実物を見て学習意欲が高まり，「使ったので数が減る」という問題場面の理解を深めることができた。

思考のつながり

○既習のばらからひく計算の仕方を確認したり，減数が被減数の一の位の数よりも小さいことに着目させたりすることで，問題解決に向けてのイメージをもつ児童の姿が見られた。

○既習の考え方では解決できない場面を設定することで，新たな方法での問題解決に向けて，意欲的に自力解決していた。

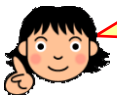
10 のまとまりからひいて，残った数をたすと，答えが分かると思うよ。

今までと同じようにばらからひいて，たりないところは，10 のまとまりからひくといいと思うよ。

○友達のまる図の説明をブロック操作を用いてさらに説明させることで，それぞれの考え方の理解を深めた。

○10 のまとまりからひく方法とばらからひく方法を見付けていた。

すぐにばらからひけなくても，10 のまとまりを使ってひくと計算できるんだね。



一つの式だけど，計算の考え方は二つあるんだね。

思考のつながり

今までは，ばらからひいたけど，10 のまとまりからもひくことができるんだね。